



# 住み慣れた地域で 認知症と ともに生きる

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気によるものです。高齢者だけでなく若年性の認知症もあり、決して他人ごとではありません。

市は、認知症になっても自分らしく安心して地域で生活していけるまちを目指しています。今回の特集では、認知症の本人やその家族をサポートする取り組みを紹介します。

☎ 高齢福祉課 ☎ 内線 1308



SDGs17の目標  
3 すべての人に健康と福祉を

取手市は <sup>エスディージーズ</sup>SDGs の取り組みを推進しています。特集記事に関連するアイコンを掲載します。

## 認知症とは

### ▶ 認知症の原因となる病気

認知症は、脳の病気や障害などのさまざまな原因で、認知機能が低下し日常生活に支障が出てくる状態をいいます。

アルツハイマー型認知症は、認知症の中で最も多く、脳神経が変性して脳の一部が萎縮していく過程で起きます。

### ▶ 【取手市】認知症または認知症の疑いがある高齢者の状況（7月1日時点）

現在、取手市は市民の3人に1人が65歳以上の高齢者という、高齢化率が高い状況です。認知症は年齢が高くなるほど発症しやすくなります。65歳以上の高齢者のうち、介護認定を受けた人で認知症または認知症の疑いがある高齢者は、高齢者全体の約8.0%、約12人に1人の割合です。

取手市の人口	高齢者人口 (65歳以上)	認知症または認知症の疑いがある高齢者※	
		人数	割合
10万6,346人	3万6,920人	2,972人	約8.0%

※認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱa以上の方

### ▶ 認知症早期発見のため、「認知症初期集中支援チーム」を地域包括支援センターに配置しています

認知症初期集中支援チームは、認知症の本人または認知症の疑いがある方と、その家族をサポートするための専門チームです。認知症サポート医、医療や福祉の専門職で構成しています。

認知症サポート医とは、認知症に関わる地域医療体制をつくるために、中核的な役割を担う医師のことです。

## 物忘れと認知症の違い

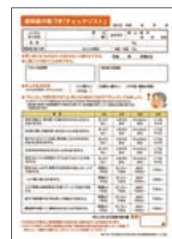
### ■ 加齢による物忘れ

- ・体験したことの一部を忘れる
- ・物忘れを自覚できる
- ・ヒントを出すと思い出せる
- ・日常生活に大きな支障はない

### ■ 認知症による記憶障害

- ・体験そのものを忘れる
- ・物忘れを自覚できない
- ・ヒントを出しても思い出せない
- ・日常生活に支障が出る

認知症の気付きチェック  
リストを入手できます



### ▶ 特集を動画で公開

認知症の症状や早期発見の重要性など、認知症サポート医へのインタビューを中心にまとめました。



## 認知症は「早期発見」が重要

認知症初期集中支援チームの認知症サポート医・石井啓一医師に、お話を伺いました。



あおぞら診療所所長 石井啓一医師  
(認知症サポート医)

### ▶ 体験そのものを忘れてしまう認知症の症状

「人の名前が出てこない」など、体験の一部を忘れるのは、加齢による物忘れと考えられます。

認知症による記憶障害の場合、例えば、昨日駅に行って誰かに会ったとしたら、その人の名前が思い出せないのではなく、駅に行った体験そのものを忘れてしまうのです。

### ▶ 認知症の方への接し方

認知症の方は、自分なりに考えて「正しい」と思う世界を生きています。その人自身の人格を認め、責めないようにすることが大切です。そして、

できることはなるべく本人にしてもらうようにしましょう。

### ▶ なぜ、認知症は早期発見が大切なのか

認知症は、初期の段階で発見し早期に対応すれば、症状の進行を遅らせることが可能です。

病院に行くのをためらって発見が遅れると、認知症が進行してしまいます。「何かおかしい」と不安に感じる事があれば、早めにかかりつけ医や専門医を受診してください。「病院に行くのはちょっと…」という方は、高齢福祉課や、地域包括支援センターに気軽に相談しましょう。